

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
【テーマ・理念・性格等について】		
1	素案「3 博物館の基本的な性格」(4)博物館資料を幅広く活用する博物館については、博物館に関心の深い人や技術を持った人だけでなく、県民の皆さんが広く使える“やさしい博物館”としてもらいたい。	四日市
2	素案に三重県らしさと書いてあるが、ポイントを絞って検討した方がよいのではないか。	四日市
3	環境面からも自然を取り上げて、バランスを考えてもらいたい。	四日市
4	新博物館の意義としては、三重のアイデンティティの明確化とともに、地域の活性化への貢献というのもあるのではないか。	津
5	自然科学と人文科学の融合を図って、より総合的なことが考えられる頭を作る場となって欲しい。	津
6	創造的・論理的な思考が発達するように、博物館を系統的に人間の思考の歴史、科学の歴史に合わせて作ってもらいたい。	津
7	総合博物館としているが、深みや専門性がなくなる気がする。	伊勢
8	他県でいろいろな博物館が作られているが、同じようなものを三重県で作っても人が入るか？三重県ならではの、魅力的なテーマをもった博物館にする必要がある。	伊勢
9	「県民とともに」ということであれば、県民からの意見を集めて面白いテーマを取り上げ、そういうことの好きな有志を集めて考えれば、三重県独自の博物館ができるのではないかと。三重県は各地域の地域色が強いので、例えば地域毎の部屋を作って面白いことができればよいのでは。	伊賀
10	成功している他県の博物館等は、何でもありではなく、差別化して成功している。次代を担う子どもたちに焦点をあてて、若い人にも好奇心を持ってきてもらえる博物館にしていきたい。	伊賀
11	素案について、もう少し具体的なテーマが欲しい。滋賀県の琵琶湖博物館も「琵琶湖」という明確なテーマがある。総合博物館だから自然も人文もある、というのではなく逆であるべき。	伊賀
12	三重県に斎宮歴史博物館がすでにある。これを人文系の拠点として充実させればよい。今度の博物館は自然系を充実させねば、なぜまた人文分野を含まねばならないのか。	伊賀
13	芭蕉は世界の芭蕉。県立博物館を芭蕉記念の博物館にしろうという人もいる。自然も入れるが文化も入れる博物館を。	伊賀
14	ネットワークを使ってというが、人文系の博物館は県内にたくさんあるが、自然を扱った博物館は少ない。その中でいくら情報を集めても中央には集まりにくい。自然に重点を置いて構想を練って欲しい。総合博物館と言っているのはいいが、名ばかりで人文系の博物館になることのないようにして欲しい。	熊野
15	博物館整備の意義で、博物館の目的が文化振興のための手段としてとらえられている。間違いではないが、まず博物館の機能をきちんとすることで、そこから派生して文化振興につながっていくのではないかと。収集・保管、調査・研究がまず基本になければ、そこが充実してこそ教育普及、文化振興にも関わっていきける。素案をこのまま進めていけば財政的にもかなりの規模のものになり、また財政的理由でだめにならないか懸念している。	熊野
16	自然についての視点が弱いと思った。基本計画の中で取り入れていくと聞いたので、是非お願いしたい。三重で多くのアマチュアが活動している。そういうアマチュアの手元にもたくさんのデータ、資料標本がある。そういう人が集まって語れる場所がない。県立博物館が以前はその役割を果たしていたが、今は十分と言えない。	熊野
17	まちかど博物館の館長さんの長年のコレクション、こだわり、地域への思いを見ていると、高いレベルの専門家の研究材料となる資料ばかりでなく、気軽に楽しめるスペースの確保も大事ではないかと思う。	熊野
18	移動展示の考えもあるが、東紀州の人に博物館の情報をどう提供するかも大事。今から博物館を利用する若い人たちは、こういう場(県民懇談会等)には来にくいと思うが、そういう人たちの意見も聞いて欲しい。	熊野
19	年間10万人が呼べる施設を作って既存の観光施設にも寄与すべき。	熊野
20	形としてあるものを残すことも大事だが、無形のもの、文化財、まつり、神事、盆踊りなど、各地のものがどんどん消えていっている。地元の市町で残そうとすることは当然だが、県も一役買って欲しい。今記録して残しておかないと大変なことになるのではないかと。その点は博物館の基本的な考え方にも含まれているか。素案にも「地域文化の継承」と出ているので、博物館が(地域文化)復活のきっかけづくりになればよい。	熊野

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
21	産業とつなげた文化と言っているが、丸山千枚田も棚田ということでひとつの文化資産ではないか。林業でも「なすびすくりに林業」というものが五郷町で伝えられてきた。これらも文化的な資料として残せるのか。	熊野
【立地場所について】		
22	アクセスの点については、利便性と地球温暖化のことからも、公共交通機関で行ける場所としてもらいたい。	四日市
23	総合であるのであれば、博物館の近くに自然とふれあえるフィールドがある立地場所を考えるべきである。	四日市
24	立地場所については、クルマでないと行けない場所ではなく、公共交通機関を考えた便利な場所にしてもらいたい。それが、リピーターの確保にも繋がる。	四日市
25	四日市市立博物館については、駅からの利便性はよいが、駐車場がとれないため、小学校がバスで行けない。駐車場についても考慮すること。	四日市
26	博物館をどこに建てるか。例えば近くに県立図書館がある場合、そこに公文書館的機能を持たせれば、そこで十分必要な情報を得ることが可能になる。今後、どここの場所に博物館を設定していくのかということも大事な要素になる。	津
27	伊勢新聞等の報道によると、立地については、津市で固まっているようにも思えるが、素案に示されている立地の条件に、伊勢はぴったりである。候補地として、伊勢を挙げてほしい。	伊勢
28	県は、南北格差の是正と言うが実際には、あまり取り組まれていない。博物館を伊勢地域に建てることで、格差の解消につながるのではないか。	伊勢
29	県内各地からアクセスしやすい土地として、県央部が挙げられているが、本当にそうなのか？現在の県立博物館は、津市にあっても、限られた人だけが利用している。地域に魅力があり、他にも見どころがあるところに博物館を建てる方が、来館者が増える。	伊勢
30	「他機関と連携しやすいところ」と書かれているが、これは、管理側の都合で言っていることで、その都合で考えるなら、将来的にも、博物館が利用されないという状況は、同じである。利用者主体で考えていない。通信手段が発達しているのだから、管理運営は、どこでもできる。	伊勢
31	県内外からの参宮客などにターゲットを絞って考えるのもいいと思う。参宮のついでに、伊勢にもあるいろいろな文化(織物、工芸、踊り、国学…)について、テーマを決めて見てもらうのもいいだろう。	伊勢
32	立地場所については、収蔵物を保存し、継承していくという観点から、地震その他の自然災害の起こりやすい土地は、避けるべきである。千歳山は、活断層の近くにある。和歌山県立博物館は、津波等の水害の起こりやすい、低い土地に建っている。	伊勢
33	厚生年金休暇センターの跡地を利用してはどうか。(5億数千万円で売り出される予定のものを、県が6億円くらいで購入してはどうか。)	伊勢
34	立地は、駅前や外宮の近くではどうか。	伊勢
35	三重県の文化は、太古から伊勢湾が文化の根底となっている。志摩半島から桑名の間で博物館を作るのがよい。	伊勢
36	観光客等外部の人がお金を落とし(使い)、全体として県の力を上げるために、伊勢で考えてほしい。	伊勢
37	昔から「伊賀に県政なし」と言われているように、伊賀には県立の施設がほとんどなく、津市に偏っている。素案には「県央部」とあるが、津に決まったのか？昔から伊賀に博物館が欲しいと思っている。	伊賀
38	津に作ると決めるのではなく、北勢・伊賀・南勢にも大きい博物館がひとつあって、大型展示がいつでも見れるといい。	伊賀
39	早くから伊賀に博物館を作って欲しいと要望してきている。議会にも伊賀に博物館の分館をつくって欲しいと要望を出したこともある。	伊賀
40	他の機関を先に伊勢側へ置いておいて、「連携しやすい」というのはどうか。	伊賀
41	平均的には県央部は便利だが、伊賀や東紀州からは遠い。昔はこの県でも県博へ行けばその県のことだいたい分かるという(オーソドックスな)感じだったが、これからは(特定の)目的を持ってくる人が増えてくるし、そうあるべき。分館なり本館なりを伊賀に建てて欲しい。	伊賀

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
42	立地は県民懇談会の県内5箇所どこでも「うちが一番いい」という意見が出るだろう。それは県が多様な地域文化を持っているからに他ならない。ネットワークもあるが、今ある拠点をどうつなげるか、一方向でなく双方向とする工夫が必要。	伊賀
43	地元を持ってきて欲しいというのは100人が100人とも考えることであって、私自身は津でよいと思っている。	伊賀
44	伊賀では昭和40年代から伊賀に博物館を、という運動をやってきた経緯がある。津へはなかなか行けなかった。単なる地域エゴではない。伊勢の人も伊賀へ来る何かがあればよい。我々もお木曳きがあれば伊勢へ行く。そういう交流施設になればよい。	伊賀
45	場所は県中部で決定か？他の会場でもいろんな意見が出たと思うが。	熊野
【博物館の建物について】		
46	建物は、格調の高いものとしてもらいたい。	四日市
47	魅力的な展示にしないと人は寄ってこない。	津
48	実物、本物を見せることによって、それを見た人が、言葉だけの説明では受け取れないものを何か受け取れる、それが博物館の大きな基本的な機能ではないか。そのためには、それなりの収蔵庫あるいは展示室がどうしても必要。	津
49	昔は子どもを外に連れて行き、自然に親しませる臨海実習があったが、今はできる場所も確保しにくく、あまりされていない。博物館の出店として臨海実験場のようなものを作って欲しい。	伊賀
50	前回の博物館を作る話も凍結された。今回もどうなるのか？財源はどうするのか、どれだけ投資できるのか、県民の合意が得られるか。やるならやるで、長期ビジョンも合わせて考えていかねばならない。三重県は多様な県。生活圏、風土、歴史、文化の違いを認識した上で計画を立てて欲しい。	伊賀
51	現在の県立博物館は展示室も閉鎖され非常に残念な状態。これまでの整備検討もつづられて最悪の状態に陥っている。ないものを新設するより、老朽化に伴う改築・新築こそ早急にやって欲しい。博物館整備は現知事の公約であるが、知事が変わったりしてまた反故にされないか心配している。期待したことが、県民の意見も聞かず一方的に裏切られないか。	熊野
52	県民のひとりとして大きく声を上げてこなかった反省もあるが、県立博物館の現状を見た方は、新しい誇れる博物館の整備が必要だということが分かると思う。是非造って欲しいということを県上層部の方にも伝えて欲しい。	熊野
【展示について】		
53	魅力的な展示にしないと人は寄ってこない。	津
54	実物、本物を見せることによって、それを見た人が、言葉だけの説明では受け取れないものを何か受け取れる、それが博物館の大きな基本的な機能ではないか。そのためには、それなりの収蔵庫あるいは展示室がどうしても必要。	津
55	学校から行って、毎年同じ展示物が展示されているようではいけない。何年かごとにリニューアルをする。また、移動展示にも力を入れてほしい。	伊勢
56	万古焼と伊賀焼の両者について歴史的なことが分かるようなコーナーが博物館の中にできればと期待している。朝日町で古万古のかまどが発掘されたが予算の関係で埋められてしまい残念。掘り起こして展示できれば、博物館の事業のひとつとなるのでは。	伊賀
57	琵琶湖博物館に孫を連れて行くと、自然系の体験展示を見ていて、人文系は見向きもしない。化石、恐竜、ロボット、昆虫などに子どもは興味を持っており、そういうものをメインにしないと子どもたちは足を運ばないのでは。子どもはゲーム感覚でパソコンがあると必ず開いてクイズをやったりして知識を得ていく。子どもたちが興味をもってまた来たいという構想にしないといけない。	伊賀
58	博物館は生涯学習施設で老若男女が親しむもの。ひとつの分野に絞るのでなく、展示室ごとに対象を絞ってもいいのでは。ディスカバリールームみたいなものがあれば、自分が興味のある展示を見れる。	伊賀
【レファレンス機能について】		
59	問い合わせ対して、アドバイスや支援をしてもらえる博物館となってもらいたい。	四日市
60	素案に、レファレンスという言葉が使われているが、誰にでもわかるような言葉を使ってもらいたい。	四日市
61	図書館ではできない、博物館でしかできないようなレファレンス機能はぜひ残しておいて欲しい。	津

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
【収蔵・収蔵物について】		
62	資料が他県等へ流出しないよう受け入れ体制を整えてもらいたい。	四日市
63	現地保存主義については、伝承、方言といった民族学的な要素で無形文化財的なものについても、「総合」ということで考えてもらいたい。	四日市
64	他県では、廃校を活用している例もある。個人で収集した資料の行き先を考えてもらいたい。あそこに行けば見られるということも含めて考えてもらいたい。	四日市
65	現博物館は建物がお粗末である。新博物館は展示室だけでなく、保管のための空調も含めて、しっかりした収蔵庫を作ってもらいたい。	四日市
66	ネットワークを考えていくときにも、例えば、本物として各地域にあるものをどこまで県立博物館では所蔵するのか、どこまでの部分はその地域の特性を生かした博物館で所蔵するのか、そういうことも含めて考えていって欲しい。	津
67	県内の個人で貴重なコレクションを持っている方がいるので、それをデータベース化して閲覧できるようにすれば、輪が広がる。	津
68	ある程度の収量、収蔵できる建物は絶対必要である。	津
69	まず博物館の博物館たる役割をまずきちんと果たせるだけの建物なり収蔵があって、そのあと県民参画も花を開くと思うので、ぜひともある程度の建物、ハコモノを作っていただきたい。	津
70	博物館で所蔵している絵画はあまり展示される機会がないので、県立美術館へ保管替えをしたらよい。県民の財産になるようなものはもう少し心がけて、県民のためになるように活用していく、そういう精神を県職員は持っていたきたい。	津
71	希少生物を保全するためのセンター的な機能を持たせて欲しい。	津
72	資料の収集に力を入れるとともに、広くてしっかりとした収蔵庫を作ってほしい。収蔵庫がすぐに一杯になるということは、他県の博物館を見ても明らかである。	伊勢
73	博物館は、宝物を保管することと教育が大きな役割。三重県でなければ見られない宝物を、しっかりと保存してほしい。博物館は、時代が変わっても宝物によって人を感動させるもので、教育とは別次元のものである。	伊勢
74	個人の収蔵物が県外へ流出している状況がある。	伊勢
75	センター博物館構想の時に、鉱物標本を県立博物館に寄贈したが、展示されずにそのままになっている。植物標本にも、そういう資料がある。寄贈された自然分野の資料を大切に、県民に見せてもらいたい。	伊勢
76	資料の現地保存主義は分かるが、それをどのように県として支えられるのか。県の役割として、何ができるのか。	伊勢
77	学校などで保存している標本もあるが、担当している先生が変わり専門分野が変われば、資料が分散してしまうこともある。そういう資料を管理できるのは博物館だけである。	伊賀
78	伊賀にあった個人の1万点ほどの化石標本が、場所がなくて、今、琵琶湖博物館に置かせてもらい、調査してもらっている。本来伊賀で展示したいという気持ちがあった。博物館ができたなら何とかしたいと思っている。	伊賀
79	伊賀にも古い資料がたくさんあるが、散逸していくのを目の当たりにしている。	伊賀
80	今の県博にも資料を収めているが、なかなか利用できない。新しい博物館は十分な収蔵能力を備えて欲しい。	伊賀
81	人文系の資料については各地域に郷土資料館などがあってまだ収蔵場所が確保されている。自然系については県立博物館の収蔵庫もそんな状況にない。収蔵保管の施設を作って欲しいと切に願う。三重県のもを三重県できちんと保管できる施設を望む。	熊野
82	田川知事時代からの収集物もかなりの量があると思う。これから収集しなければならない自然の資料もある。収蔵庫としてどのくらいの規模を考えているか。	熊野
83	平成5年頃、県立博物館の職員が、県内の資料で個人も対象にしてデータベースを作りたいと、自分が持っている化石の資料についても調査に来られたが、その結果がどうなったか教えてもらっていない。そのときのデータベースが残っているならば、個人収集資料の状況調査の参考にして欲しい。	熊野

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
【新博物館のネットワーク機能について】		
84	コア機能、インデックスといった他の施設との連携を強化することが大切である。	四日市
85	各地にテーマ博物館をいくつか作って、津にセンター博物館を作ってはどうか。充実させていくことはどうか。	伊勢
86	「みえの博物館のネットワーク」が気になった。センター博物館という概念がこれからは大事。センターが情報源としての核になって欲しい。そこからアピールも出来ればよい。博物館の中に4つの国がブースとしてあって、県民参加の形で、おらがまちが大好きで情報発信ができる方が常駐して、そこに行けば地域の方にふれあい、直接やりとりができるようなセンターであればいいと思う。	伊賀
87	地域の若い人を育てていくことを国も考えているが、これからは地方の時代なので、地域のものをつなげる工夫をして欲しい。	伊賀
88	ネットワークでいうと山梨県の地域インデックスコーナーのようにネットワーク中心にした情報センター的なものに力点を置いて欲しい。四日市の環境センターのインタープリターとか、宮川流域案内人とか語り部の会とかいろいろなグループのネットワークの核となる施設、モノだけでなく人的なネットワークの施設であって欲しい。	伊賀
89	大阪の自然史博物館はサークルの方が集まって情報交換できる場となっている。その辺のネットワークも考えていただきたい。	伊賀
90	松阪以南には展示イコール収蔵庫となっている博物館が多い。人員も退職した高校の先生がやっていたりする。県内の収蔵資料のデータベース化で、県からフォーマットを渡して収蔵品の調査資料をくださいと言ってもその体制では難しく、人的にも県のバックアップが必要である。	熊野
91	FAXでも2,3台でなくたくさん何台も入っている方が機能的に上がる。津市にひとつ作って終わりではなく、各館を結んで相乗効果をはかるべき。各地の博物館では人的パワーが少ない。専任の学芸員やキュレーターが果たしてどれだけいるのか？充実が必要である。	熊野
92	ネットワークの中に上手に組み込むことで、博物館が地域のまちづくりのサポートもして欲しい。例えば世界遺産の熊野古道で、古道センターやフィールドや文化資産を活用してはどうか。	熊野
93	まちかど博物館のことをネットワークの中でピックアップしてとらえているか。	熊野
【県民参画について】		
94	三重大学を退職した教官に、博物館活動について協力してもらうように呼びかければ、かなりの即戦力となるのでは。	津
95	県民の力を活用するとともに、研究者から初心者まで、みんなが学べる施設にしてほしい。	伊勢
96	大阪市立自然史博物館は市民参画が進んでいて、三重の県博にはサポートスタッフの制度があるが、それよりもっと気楽に関われる友の会がある。未分化の博物館が好きな人を集め、それがだんだん分化していったうまいっている事例である。県民参画もはじめから100%は無理で、オープンするときに全部できている状況を目指すのではなく、だんだん進化していく博物館という考えで進めていけばいいのでは。	伊賀
【学芸員について】		
97	総合博物館としてフィールドが大切であり、それに必要な学芸員を確保すること。	四日市
98	各地は各地の博物館で活動してもらい、県は中央として専門的なサービスをするところであると思うので、学芸員は幅広い知識を持った人を置いてもらいたい。	四日市
99	現在、県の総合文化センターの施設は、月曜日が休みであるが、県民の利用の面から、留守番を置いて、簡単な説明や対応が可能としてもらいたい。このため、新博物館では、ボランティアの方の活用や、職員にも若干の余裕をもたして、県民サービスに努めてもらいたい。	四日市
100	琵琶湖県立博物館の学芸員のレベルは高い。新博物館もコストを考えずにこうしたレベルの高い学芸員を置いてもらいたい。	四日市
101	現在、博物館が収蔵する「宝」を残していくこと、それを学芸員が研究することが、博物館の使命である。	四日市
102	博物館活動の中核となる学芸員は、県職員の身分とすべき。民間を入れる場合はあくまで補完的な役割とすべき。	津
103	学芸員の人数と質(力量)の確保の必要性を強く感じる。県立博物館で同定会を行う時に、外部の人が協力しているが、やはり学芸員が対応すべき。それを外部の人(県民)がサポートするのがよい。	伊勢

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
104	学芸員については、開館と同時に集め始めては遅い。計画的に確保して欲しい。	伊勢
105	大学で勤められるくらいの程度の専門性をもった学芸員を確保すべきである。	伊勢
106	人材、学芸員を育てて欲しい。館長が県職員の天下り先とはなって欲しくない。	伊賀
107	建物を建てても今、人件費を削られがち。民間とともに動かすということだが、学芸員などの核となる人がまずいてこそ動かせる話。ソフト面を重視して欲しい。	伊賀
108	熊野にもまちかど博物館がたくさんあるが、感心するのは館長さんが一生懸命説明してくれること。人材育成が大事である。モノに対し、どう人が語るか。	熊野
109	施設が立派に越したことはないが、それより中の資料、人材が大切である。しっかり考えて欲しい。地域にも貴重な資料があり、人材がいる。活用できるようなシステム作りを考えて欲しい。	熊野
110	県職員の中にも専門家や博士号をとっている人もいる。林業、漁業、獣医、文化歴史とか。身近なところの人間も基本計画づくりの際に活用すればよい。	熊野
【管理・運営について】		
111	素案の5博物館施設の整備の考え方や6博物館の管理運営の考え方が博物館を考えていく上で大切である。さまざまな運営形態が考えられるが、研究部門とかコアとなる部門は、県が直営で行うべきである。他の部門は、NPOとかボランティアを組織的に考えるとかができるのではないか。	四日市
112	PFIや指定管理者制度について、博物館は長期的、継続的に地域の文化や自然の有様を収集・保存・調査研究してその活用を図っていくことが大事で、短期的に運営主体が交代するような体制派あまりそぐわないのではないか。	津
113	指定管理者の問題は、博物館というのは三重県の知能の部分で、根幹に関わる問題だと思うので、慎重にしていきたい。	津
114	博物館に足を運んでくれるような環境づくりや、施設のあり方が、これからの教育の中では非常に大事だと思う。そういう意味で、学芸員の質が非常に重要なポイントになってくるのではないか。	津
115	学芸員とボランティアとの関係は難しい。「サポートスタッフ」が今いるが、サポートだけではいつまでも続かない。学芸員がまずしっかりあって、ボランティアが補完関係にあってはじめて継続的な活動ができる。	津
【公文書館(機能)について】		
116	収支を度外視しても県としてやらなければならないこともある。公文書館は、市町村合併などで散逸が懸念されるので、こうした分野については、県がやらなければならない。	四日市
117	公文書館は図書館に持って行っていいのではないか。	津
118	公文書館は新しい図書館等の整備として考えられないか。	津
119	公文書館は、必ず設置する。後世のために、しっかりした収蔵庫を。	伊勢
120	古文書・公文書等は、歴史の資料ということで斎宮歴史博物館へもっていったらどうか。	伊勢
【現博物館について】		
121	「今、県立博物館は閉じられていますが」、で片付いてしまうのが問題。一時的に展示室を設けることなども早急にやっていただきたい。まずは空白期間を設けないための策をやって欲しい。	津
122	現在、博物館が閉鎖中である。新しい博物館ができるまで、現博物館の活動を含め、どのような活動をしていくのか。	伊勢
123	今の博物館は展示室が閉まっているが、自然系の資料にも日本に誇れる資料があると聞いている。今あるものを踏まえ、次に生かせるようにして欲しい。	伊賀
【事業費・運営費について】		
124	市の博物館の例では、年間運営費にかなりの金額がかかっており、一方で入場料は無料としている。ランニングコストについてもしっかりと検討すべきである。	四日市
125	新博物館に建設について、いくらぐらいの予算を考えているのか。	四日市
126	財政難の状況で、何を要望しても切り捨てられる状況であるが、博物館については、借金をしてでも建ててほしい。	伊勢
127	建設には財政的に相当のものがいると思うが、頑張ってもらいたい。内容を充実するために予算をしっかりとって欲しい。	熊野

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
【文化審議委員について】		
128	委員の中に自然誌の方が入って、この素案を作られたと思うが、どのような方が委員として入り、討論されたのか。	四日市
129	文化審議会委員に自然系の人がない。なぜだ。今後、是非入れてほしい。	伊勢
130	地域で活動している人を公募委員として入れてほしい。	伊勢
131	委員15名の専門分野は何か。男女の数、出身地域はどうなっているか。	伊賀
132	大枠が決まる前に、今の段階から自然系の委員を入れて欲しい。	伊賀
133	三重には伊勢、志摩、伊賀、紀伊の4つの国があり、各地域でそれぞれ文化が違うが、三重の文化振興方針(仮称)の中間案を見ると「三重の文化の特徴」では「美し国」(＝「伊勢」)でひとくりにされている。三重の文化を一枚岩で表層的にとらえるのではなく、個性の違いを際立たせて、県民がその違いを認識できるようにすべき。今後、委員またはオブザーバーとして、その地域のことを血として肉として身につけた、各地域を皮膚感覚で語れるような人たちを入れるべき。	伊賀
134	素案の中の基本的な性格の(4)に「資料を幅広く活用する」とあるが、公文書館機能のことが一辺倒に書かれており、自然系の資料のことに触れられていない。他の場所では自然系資料の保存収集についても書かれているところもあるが、自然系の委員がないことが欠点ではないか。	伊賀
135	博物館の専門家が集まっても必ずしもいい博物館を作ることに結びつくわけではない。いろんな分野の委員が集まっているのはいいが、検討会などでは県民から募集するとかしているんな人が参加して、機運を高めていくのがいい。	伊賀
136	審議会委員に自然系の人がない。自然系も充実させて欲しい。	熊野
【次世代育成について】		
137	小さい子どものうちから、「楽しい」と思う博物館としてもらいたい。例えば、放課後に、わいわい遊べる、あそこに行けば、いろんなことを知ることができるような、金沢21世紀美術館のように小中学生に必ず来てもらえる博物館としてもらいたい。	四日市
138	小さな子ども達が楽しめるクイズとか、もっと生きているものの数を増やせば、子ども達も来てくれると思います。	津
139	自分は博物館に行ったことがない。これから博物館が建てられるのはずいぶん先の話のような気がする。子どもたちの世界は今殺伐としている。こういう場をきっかけとして、もっと夢のある世界があるということを、建設を待たずして今からやっていって欲しい。無形文化財も声を大にして言っていけないと無くなってしまおうと切実に思う。こういう活動も進めていって欲しい。	熊野
【評価について】		
140	どれだけの人に利用されたのかということが大切であり、他県の例では、何人程度利用されているのか。	四日市
141	利用者の観点から、県民が評価できる博物館としてもらいたい。	四日市
142	最近の博物館は、入館者数の増加を目標にしているが、本来は、モノ主体の施設で、入館者数を目標にするのは、おかしいと思う。	伊勢
【文学・文学館について】		
143	公文書館だけでなく文学館も大事。今度の県立博物館をとらえる視点としては、出来上がったならそれで終わりではなく、それが出来た後、そこからどう分化し増殖していくかという発想が必要。その発想があれば、公文書館や文学館への道が開ける。	津
144	今の財政の中で立派なハコモノを建てたり、いくつかに分割して建てることは大変と思うが、何年か先にこういうふうにしていくという全体像が明らかにされたら、展望が持てる。人間が生きてきた歴史的なものや文学的なものの収集も大事で、文学に関する生き方についての資料もかなり必要。何年か先の博物館の全体像を考えながら当初は収蔵庫をどうするかということを示して欲しい。	津
145	文学の要素を取り入れて欲しい。受け皿として博物館を早く作らないと資料が四散していってしまう。	伊賀
【その他】		
146	こうした議論をするためにも、他県の博物館や現三重県立博物館の概要(入場者数、入館料等)は説明してもらいたい。	四日市
147	最初は楽しみから、楽しみが学問になっていく。皆が楽しく過ごせて、知らない間に学問に溶け込んで、そして創造の世界に入っていき、そういうやり方を考えてもらいたい。	津

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場
148	今県立博物館が移動博物館をやっており、本物を持って小学校等を回っているが、やはり現物を見せるということは非常に重要である。	津
149	外国人の方との共生、多文化の共生についても幅広く博物館でできるのではないかと。	津
150	地域のフィールド、自然を守る活動を入れてほしい。	伊勢
151	新しい博物館は、どれくらいのレベルのものにしていくのか。市民や県民が学ぶ程度か。	伊勢
152	神宮徴古館には、県立博物館より重要文化財のような貴重な資料があるが、あまり人が入っていない。人を呼び込む工夫が必要である。	伊勢
153	博物館の建設計画については、過去2回、財政難ということで頓挫した。今回の計画について、実現できる可能性はどれくらいと考えるのか。	伊勢
154	博物館建設というハード、文化振興・まちづくりというソフトを分けて議論すべき。まずは、博物館を建て、そこで何をするのかという基本的な部分をしっかりと考えるべき。	伊勢
155	新博物館と文化財保護法との整合性をどうとらえるか。今までは、教育委員会で文化財等を所管してきた。資料は大切であるが、生活部になったらどうか。	伊勢
156	国や県も次代の夢をかなえるものが大切なものと気付くことに意義がある。山梨県博の「かいじあむ」のように「みえじあむ」というのも考えてみたらどうか。	伊賀
157	素案は立派だが、三重県の名前をつけなくても他でもやれそうなものとなっている。専門家を入れてもっと具体的に書き直してほしい。	伊賀
158	県民懇談会を五箇所で行っているが、県民の声を聞いたという単なるアリバイ作りで終わらないようにしてほしい。	伊賀
159	大阪市立自然史博物館は博物館の施設自体が長居公園の中にあり、市民の憩いの場となっている。植物にも札がかかっている植物資源の体験学習も簡単にできる。三重の自然・歴史が生かせる憩いのエリアを作ればどうか。	伊賀
160	環境にも配慮した、三重の産業振興をリードする博物館になってほしい。	伊賀
161	インターネットが発達していて、神奈川県や千葉県博物館はホームページ上に参考になるものがたくさんあり、検索して簡単に勉強できる。作るのは大変だが、三重県でも是非お願いしたい。	伊賀
162	今まで博物館の検討をしていることを知らなかったのもっと県民に知らせてほしい。	伊賀
163	美術館の友の会も一時期盛大だったが今はどうか。(縮小しないためにも?)差別化してほしい。お金のことも心配。運営管理費も「絞れ」となり中途半端なものにならないか。	伊賀
164	「美し国」は伊勢のサブテーマにはなるが、三重のテーマではない。三重は4つの国。ソウルの博物館に行ったことがあるが、先生や地域の子どもたちがノートを広げて自由に見ている。親しまれていると感じた。研究してほしい。	伊賀
165	文化施設と自然の中間にあるものが博物館だと思っている。名前をつけるなら自然に近いものにしてほしい。今の自然の状況を把握し県の特徴を名前に生かせばよい。	熊野
【三重の文化振興方針(仮称)について】		
166	文化について、人材育成に力を入れてほしい。長い目で見て「文化行政」でなく「行政の文化化」を。	伊賀

「新しい県立博物館についての県民懇談会」で出された意見(四日市市)

番号	項目・内容
	【テーマ・理念・性格等について】
	素案「3 博物館の基本的な性格」(4) 博物館資料を幅広く活用する博物館については、博物館に関心の深い人や技術を持った人だけでなく、県民の皆さんが広く使える“やさしい博物館”としてもらいたい。
	素案に三重県らしさと書いてあるが、ポイントを絞って検討した方がよいのではないかと。
	環境面からも自然を取り上げて、バランスを考えてもらいたい。
	【立地場所について】
	アクセスの点については、利便性と地球温暖化のことからも、公共交通機関で行ける場所としてもらいたい。
	総合であるのであれば、博物館の近くに自然とふれあえるフィールドがある立地場所を考えるべきである。
	立地場所については、クルマでないと行けない場所ではなく、公共交通機関を考えた便利な場所にしてもらいたい。それが、リピーターの確保にも繋がる。
	四日市市立博物館については、駅からの利便性はよいが、駐車場がとれないため、小学校がバスで行けない。駐車場についても考慮すること。
	【博物館の建物について】
	【展示について】
	【レファレンス機能について】
	問い合わせに対して、アドバイスや支援をしてもらえる博物館となってもらいたい。
	【収蔵・収蔵物について】
	資料が他県等へ流出しないよう受け入れ体制を整えてもらいたい。
	現地保存主義については、伝承、方言といった民族学的な要素で無形文化財的なものについても、「総合」ということで考えてもらいたい。
	他県では、廃校を活用している例もある。個人で収集した資料の行き先を考えてもらいたい。あそこに行けば見られるということも含めて考えてもらいたい。
	現博物館は建物がお粗末である。新博物館は展示室だけでなく、保管のための空調も含めて、しっかりした収蔵庫を作ってもらいたい。
	【新博物館のネットワーク機能について】
	コア機能、インデックスといった他の施設との連携を強化することが大切である。
	【県民参画について】
	【学芸員について】
	総合博物館としてフィールドが大切であり、それに必要な学芸員を確保すること。
	各地は各地の博物館で活動してもらい、県は中央として専門的なサービスをするところであると思うので、学芸員は幅広い知識を持った人を置いてもらいたい。
	現在、県の総合文化センターの施設は、月曜日が休みであるが、県民の利用の面から、留守番を置いて、簡単な説明や対応が可能としてもらいたい。このため、新博物館では、ボランティアの方の活用や、職員にも若干の余裕をもたして、県民サービスに努めてもらいたい。
	琵琶湖県立博物館の学芸員のレベルは高い。新博物館もコストを考えずにこうしたレベルの高い学芸員を置いてもらいたい。
	現在、博物館が収蔵する「宝」を残していくこと、それを学芸員が研究することが、博物館の使命である。
	【管理・運営について】
	素案の5 博物館施設の整備の考え方や6 博物館の管理運営の考え方が博物館を考えていく上で大切である。さまざまな運営形態が考えられるが、研究部門とかコアとなる部門は、県が直営で行うべきである。他の部門は、NPOとかボランティアを組織的に考えるとかできるのではないかと。
	【公文書館(機能)に関して】

	収支を度外視しても県としてやらなければならないこともある。公文書館は、市町村合併などで散逸が懸念されるので、こうした分野については、県がやらなければならない。
	【現博物館に関して】
	【事業費・運営費について】
	市の博物館の例では、年間運営費にかなりの金額がかかっており、一方で入場料は無料としている。ランニングコストについてもしっかりと検討すべきである。
	新博物館に建設について、いくらぐらいの予算を考えているのか。
	【文化審議委員について】
	委員の中に自然誌の方が入って、この素案を作られたと思うが、どのような方が委員として入り、討論されたのか。
	【その他】
	どれだけの人に利用されたのかということが大切であり、他県の例では、何人程度利用されているの
	小さい子どものうちから、“楽しい”と思う博物館としてもらいたい。例えば、放課後に、わいわい遊べる、あそこに行けば、いろんなことを知ることができるような、金沢21世紀美術館のように小中学生に必ず来てもらえる博物館としてもらいたい。
	素案に、レファレンスという言葉が使われているが、誰にでもわかるような言葉を使ってもらいたい。
	こうした議論をするためにも、他県の博物館や現三重県立博物館の概要(入場者数、入館料等)は説明してもらいたい。
	利用者の観点から、県民が評価できる博物館としてもらいたい。
	建物は、格調の高いものとしてもらいたい。
	【三重の文化振興方針(仮称)に関して】

会場
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市

四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市
四日市

「新しい県立博物館についての県民懇談会」で出された意見(津)

番号	項目・内容
	【テーマ・理念・性格等について】
	新博物館の意義としては、三重のアイデンティティの明確化とともに、地域の活性化への貢献というものもあるのではないかと。
	自然科学と人文科学の融合を図って、より総合的なことが考えられる頭を作る場となって欲しい。
	創造的・論理的な思考が発達するように、博物館を系統的に人間の思考の歴史、科学の歴史に合わせて作ってほしい。
	【立地場所について】
	博物館をどこに建てるか。例えば近くに県立図書館がある場合、そこに公文書館的機能を持たせれば、そこで十分必要な情報を得ることが可能になる。今後、どこの場所に博物館を設定していくのかということも大事な要素になる。
	【博物館の建物について】
	【展示について】
	魅力的な展示にしないと人は寄ってこない。
	実物、本物を見せることによって、それを見た人が、言葉だけの説明では受け取れないものを何か受け取れる、それが博物館の大きな基本的な機能ではないか。そのためには、それなりの収蔵庫あるいは展示室がどうしても必要。
	【レファレンス機能について】
	図書館ではできない、博物館でしかできないようなレファレンス機能はぜひ残しておいて欲しい。
	【収蔵・収蔵物について】
	ネットワークを考えていくときにも、例えば、本物として各地域にあるものをどこまで県立博物館では所蔵するのか、どこまでの部分はその地域の特性を生かした博物館で所蔵するのか、そういうことも含めて考えていって欲しい。
	県内の個人で貴重なコレクションを持っている方がいるので、それをデータベース化して閲覧できるようにすれば、輪が広がる。
	ある程度の収量、収蔵できる建物は絶対必要である。
	まず博物館の博物館たる役割をまずきちんと果たせるだけの建物なり収蔵があって、そのあと県民参画も花を開くと思うので、ぜひともある程度の建物、ハコモノを作っていただきたい。
	博物館で所蔵している絵画はあまり展示される機会がないので、県立美術館へ保管替えをしたらよい。県民の財産になるようなものはもう少し心がけて、県民のためになるように活用していく、そういう精神を県職員は持っていただきたい。
	【新博物館のネットワーク機能について】
	【県民参画について】
	三重大学を退職した教官に、博物館活動について協力してもらおうように呼びかければ、かなりの即戦力となるのでは。
	【学芸員について】
	博物館活動の中核となる学芸員は、県職員の身分とすべき。民間を入れる場合はあくまで補完的な役割とすべき。
	【管理・運営について】
	PFIや指定管理者制度について、博物館は長期的、継続的に地域の文化や自然の有様を収集・保存・調査研究してその活用を図っていくことが大事で、短期的に運営主体が交代するような体制派あまりそくわないのではないかと。
	指定管理者の問題は、博物館というのは三重県の知能の部分で、根幹に関わる問題だと思うので、慎重にしていきたい。
	博物館に足を運んでくれるような環境づくりや、施設のあり方が、これからの教育の中では非常に大事だと思う。そういう意味で、学芸員の質が非常に重要なポイントになってくるのではないかと。

	学芸員とボランティアとの関係は難しい。「サポートスタッフ」が今いるが、サポートだけではいつまでも続かない。学芸員がまずしっかりあって、ボランティアが補完関係にあってはじめて継続的な活動ができる。
	【公文書館(機能)に関して】
	公文書館は図書館に持っていてもいいのではないか。
	公文書館は新しい図書館等の整備として考えられないか。
	【現博物館に関して】
	【事業費・運営費について】
	【文化審議委員について】
	【その他】
	希少生物を保全するためのセンター的な機能を持たせて欲しい。
	最初は楽しみから。楽しみが学問になっていく。皆が楽しく過ごせて、知らない間に学問に溶け込んで、そして創造の世界に入っていき、そういうやり方を考えてもらいたい。
	公文書館だけでなく文学館も大事。今度の県立博物館をとらえる視点としては、出来上がったならそれで終わりではなく、それが出来た後、そこからどう分化し増殖していくかという発想が必要。その発想があれば、公文書館や文学館への道が開ける。
	今の財政の中で立派なハコモノを建てたり、いくつか分割して建てることは大変と思うが、何年か先にこういうふうにしていくという全体像が明らかにされたら、展望が持てる。人間が生きてきた歴史的なものや文学的なものの収集も大事で、文学に関する生き方についての資料もかなり必要。何年か先の博物館の全体像を考えながら当初は収蔵庫をどうするかということを示して欲しい。
	今県立博物館が移動博物館をやっており、本物を持って小学校等を回っているが、やはり現物を見せるということは非常に重要である。
	外国人の方との共生、多文化の共生についても幅広く博物館でできるのではないか。
	「今、県立博物館は閉じられていますが」、で片付いてしまうのが問題。一時的に展示室を設けることなども早急にやっていただきたい。まずは空白期間を設けないための策をやって欲しい。
	小さな子ども達を楽しめるクイズとか、もっと生きているものの数を増やせば、子ども達も来てくれると思います。
	【三重の文化振興方針(仮称)に関して】

会場
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津
津

津
津
津
津
津
津
津
津
津
津

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧(伊勢)

番号	項目・内容
	【テーマ・理念・性格等について】
	総合博物館としているが、深みや専門性がなくなる気がする。
	他県でいろいろな博物館が作られているが、同じようなものを三重県で作っても人が入るか？三重県ならではの、魅力的なテーマをもった博物館にする必要がある。
	【立地場所について】
	伊勢新聞等の報道によると、立地については、津市で固まっているようにも思えるが、素案に示されている立地の条件に、伊勢はぴったりである。候補地として、伊勢を挙げてほしい。
	県は、南北格差の是正と言うが実際には、あまり取り組まれていない。博物館を伊勢地域に建てることで、格差の解消につながるのではないか。
	県内各地からアクセスしやすい土地として、県央部が挙げられているが、本当にそうなのか？現在の県立博物館は、津市にあっても、限られた人だけが利用している。地域に魅力があり、他にも見どころがあるところに博物館を建てる方が、来館者が増える。
	「他機関と連携しやすいところ」と書かれているが、これは、管理側の都合で言っていることで、その都合で考えるなら、将来的にも、博物館が利用されないという状況は、同じである。利用者主体で考えていない。通信手段が発達しているのだから、管理運営は、どこでもできる。
	県内外からの参宮客などにターゲットを絞って考えるのもいいと思う。参宮のついでに、伊勢にもあるいろいろな文化(織物、工芸、踊り、国学…)について、テーマを決めて見てもらうのもいいだろう。
	立地場所については、収蔵物を保存し、継承していくという観点から、地震その他の自然災害の起こりやすい土地は、避けるべきである。千歳山は、活断層の近くにある。和歌山県立博物館は、津波等の水害の起こりやすい、低い土地に建っている。
	厚生年金休暇センターの跡地を利用してはどうか。(5億数千万円で売り出される予定のものを、県が6億円くらいで購入してはどうか。)
	立地は、駅前や外宮の近くではどうか。
	三重県の文化は、太古から伊勢湾が文化の根底となっている。志摩半島から桑名の間で博物館を作るのがよい。
	観光客等外部の人がお金を落とし(使い)、全体として県の力を上げるために、伊勢で考えてほしい。
	【博物館の建物について】
	【展示について】
	学校から行って、毎年同じ展示物が展示されているようではいけない。何年かごとにリニューアルをする。また、移動展示にも力を入れてほしい。
	【レファレンス機能について】
	【収蔵・収蔵物について】
	資料の収集に力を入れるとともに、広くてしっかりとした収蔵庫を作ってほしい。収蔵庫がすぐに一杯になるといことは、他県の博物館を見ても明らかである。
	博物館は、宝物を保管することと教育が大きな役割。三重県でなければ見られない宝物を、しっかりと保存してほしい。博物館は、時代が変わっても宝物によって人を感動させるもので、教育とは別次元のものである。
	個人の収蔵物が県外へ流出している状況がある。
	センター博物館構想の時に、鉱物標本を県立博物館に寄贈したが、展示されずにそのままになっている。植物標本にも、そういう資料がある。寄贈された自然分野の資料を大切に、県民に見せてもらいたい。
	資料の現地保存主義は分かるが、それをどのように県として支えられるのか。県の役割として、何ができるのか。
	【新博物館のネットワーク機能について】
	各地にテーマ博物館をいくつか作って、津にセンター博物館を作ってはどうか。充実させていくことはどうか。

	【県民参画について】
	【学芸員について】
	学芸員の人数と質(力量)の確保の必要性を強く感じる。県立博物館で同定会を行う時に、外部の人が協力しているが、やはり学芸員が対応すべき。それを外部の人(県民)がサポートするのがよい。
	学芸員については、開館と同時に集め始めては遅い。計画的に確保してほしい。
	大学で勤められるくらいの程度の専門性をもった学芸員を確保すべきである。
	【管理・運営について】
	【公文書館(機能)に関して】
	公文書館は、必ず設置する。後世のために、しっかりした収蔵庫を。
	古文書・公文書等は、歴史の資料ということで斎宮歴史博物館へもっていったらどうか。
	【現博物館に関して】
	現在、博物館が閉鎖中である。新しい博物館ができるまで、現博物館の活動を含め、どのような活動をしていくのか。
	【事業費・運営費について】
	財政難の状況で、何を要望しても切り捨てられる状況であるが、博物館については、借金をしてでも建ててほしい。
	【文化審議委員について】
	文化審議会委員に自然系の人がない。なぜだ。今後、是非入れてほしい。
	地域で活動している人を公募委員として入れてほしい。
	【その他】
	最近の博物館は、入館者数の増加を目標にしているが、本来は、モノ主体の施設で、入館者数を目標にするのは、おかしいと思う。
	県民の力を活用するとともに、研究者から初心者まで、みんなが学べる施設にしてほしい。
	地域のフィールド、自然を守る活動を入れてほしい。
	新しい博物館は、どれくらいのレベルのものにしていくのか。市民や県民が学ぶ程度か。
	神宮徴古館には、県立博物館より重要文化財のような貴重な資料があるが、あまり人が入っていない。人を呼び込む工夫が必要である。
	博物館の建設計画については、過去2回、財政難ということで頓挫した。今回の計画について、実現できる可能性はどれくらいと考えるのか。
	博物館建設というハード、文化振興・まちづくりというソフトを分けて議論すべき。まずは、博物館を建て、そこで何をするのかという基本的な部分をしっかりと考えるべき。
	新博物館と文化財保護法との整合性をどうとらえるか。今までは、教育委員会で文化財等を所管してきている。資料は大切であるが、生活部になったらどうか。
	【三重の文化振興方針(仮称)に関して】

伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢
伊勢

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧(伊賀)

番号	項目・内容
	【テーマ・理念・性格等について】
	「県民とともに」ということであれば、県民からの意見をまとめて面白いテーマを取り上げ、そういうことの好きな有志を集めて考えれば、三重県独自の博物館ができるのではないか。三重県は各地域の地域色が強いので、例えば地域毎の部屋を作って面白いことができればよいのでは。
	成功している他県の博物館等は、何でもありではなく、差別化して成功している。次代を担う子どもたちに焦点をあてて、若い人にも好奇心を持ってきてもらえる博物館にしていかないと。
	素案について、もう少し具体的なテーマが欲しい。滋賀県の琵琶湖博物館も「琵琶湖」という明確なテーマがある。総合博物館だから自然も人文もある、というのではなく逆であるべき。
	三重県に斎宮歴史博物館がすでにある。これを人文系の拠点として充実させればよい。今度の博物館は自然系を充実させねば、なぜまた人文分野を含まねばならないのか。
	【立地場所について】
	昔から「伊賀に県政なし」と言われているように、伊賀には県立の施設がほとんどなく、津市に偏っている。素案には「県中部」とあるが、津に決まったのか？昔から伊賀に博物館が欲しいと思っている。
	津に作ると決めるのではなく、北勢・伊賀・南勢にも大きい博物館がひとつあって、大型展示がいつでも見れるといい。
	早くから伊賀に博物館を作って欲しいと要望してきている。議会にも伊賀に博物館の分館をつくって欲しいと要望を出したこともある。
	他の機関を先に伊勢側へ置いておいて、「連携しやすい」というのはどうか。
	平均的には県中部は便利だが、伊賀や東紀州からは遠い。昔はどこの県でも県博へ行けばその県のことがたい分分かるという(オーソドックスな)感じだったが、これからは(特定の)目的を持ってくる人が増えてくるし、そうあるべき。分館なり本館なりを伊賀に建てて欲しい。
	立地は県民懇談会の県内5箇所どこでも「うちが一番いい」という意見が出るだろう。それは県が多様な地域文化を持っているからに他ならない。ネットワークもあるが、今ある拠点をどうつなげるか、一方向でなく双方向とする工夫が必要。
	地元を持ってきて欲しいというのは100人が100人とも考えることであって、私自身は津でよいと思っている。
	伊賀では昭和40年代から伊賀に博物館を、という運動をやってきた経緯がある。津へはなかなか行けなかった。単なる地域エゴではない。伊勢の人でも伊賀へ来る何かがあればよい。我々もお木曳きがあれば伊勢へ行く。そういう交流施設になればよい。
	【博物館の建物について】
	【展示について】
	万古焼と伊賀焼の両者について歴史的なことが分かるようなコーナーが博物館の中にできればと期待している。朝日町で古万古のかまどが発掘されたが予算の関係で埋められてしまい残念。掘り起こして展示できれば、博物館の事業のひとつとなるのでは。
	琵琶湖博物館に孫を連れて行くと、自然系の体験展示を見ていて、人文系は見向きもしない。化石、恐竜、ロボット、昆虫などに子どもは興味を持っており、そういうものをメインにしないと子どもたちは足を運ばないのでは。子どもはゲーム感覚でパソコンがあると必ず開いてクイズをやったりして知識を得ていく。子どもたちが興味をもってまた来たいという構想にしないといけない。
	博物館は生涯学習施設で老若男女が親しむもの。ひとつの分野に絞るのでなく、展示室ごとに対象を絞ってもいいのでは。ディスカバリールームみたいなものがあれば、自分が興味のある展示を見れる。
	【レファレンス機能について】
	【収蔵・収蔵物について】
	学校などで保存している標本もあるが、担当している先生が変わり専門分野が変われば、資料が分散してしまうこともある。そういう資料を管理できるのは博物館だけである
	伊賀にあった個人の1万点ほどの化石標本が、場所がなくて、今、琵琶湖博物館に置かせてもらい、調査してもらっている。本来伊賀で展示したいという気持ちがあった。博物館ができたなら何とかしたいと思っている。
	伊賀にも古い資料がたくさんあるが、散逸していくのを目の当たりにしている。

	今の県博にも資料を収めているが、なかなか利用できない。新しい博物館は十分な収蔵能力を備えて欲しい。
	【新博物館のネットワーク機能について】
	「みえの博物館のネットワーク」が気になった。センター博物館という概念がこれからは大事。センターが情報源としての核になって欲しい。そこからアピールも出来ればよい。博物館の中に4つの国がブースとしてあって、県民参加の形で、おらがまちが大好きで情報発信ができる方が常駐して、そこに行けば地域の方にふれあい、直接やりとりができるようなセンターであればいいと思う。
	地域の若い人を育てていくことを国も考えているが、これからは地方の時代なので、地域のものをつなげる工夫をして欲しい。
	ネットワークでいうと山梨県の地域インデックスコーナーのようにネットワーク中心にした情報センター的なものに力点を置いて欲しい。四日市の環境センターのインタープリターとか、宮川流域案内人とか語り部の会とかいろんなグループのネットワークの核となる施設、モノだけでなく人的なネットワークの施設であって欲しい。
	大阪の自然史博物館はサークルの方が集まって情報交換できる場となっている。その辺のネットワークも考えていただきたい。
	【県民参画について】
	大阪市立自然史博物館は市民参画が進んでいて、三重の県博にはサポートスタッフの制度があるが、それよりもっと気楽に関われる友の会がある。未分化の博物館が好きな人を集め、それがだんだん分化してうまくいっている事例である。県民参画ははじめから100%は無理で、オープンするときに全部できている状況を目指すのではなく、だんだん進化していく博物館という考えで進めていけばいいのでは。
	【学芸員について】
	人材、学芸員を育てて欲しい。館長が県職員の天下り先とはなって欲しくない。
	建物を建てても今、人件費を削られがち。民間とともに動かすということだが、学芸員などの核となる人がまずいてこそ動かせる話。ソフト面を重視して欲しい。
	【管理・運営について】
	【公文書館(機能)に関して】
	【現博物館に関して】
	今の博物館は展示室が閉まっているが、自然系の資料にも日本に誇れる資料があると聞いている。今あるものを踏まえ、次に生かせるようにして欲しい。
	【事業費・運営費について】
	【文化審議委員について】
	委員15名の専門分野は何か。男女の数、出身地域はどうなっているか。
	大枠が決まる前に、今の段階から自然系の委員を入れて欲しい。
	三重には伊勢、志摩、伊賀、紀伊の4つの国があり、各地域でそれぞれ文化が違うが、三重の文化振興方針(仮称)の中間案を見ると「三重の文化の特徴」では「美し国」(=「伊勢」)でひとくりにされている。三重の文化を一枚岩で表層的にとらえるのではなく、個性の違いを際立たせて、県民がその違いを認識できるようにすべき。今後、委員またはオブザーバーとして、その地域のことを血として肉として身につけた、各地域を皮膚感覚で語れるような人たちを入れるべき。
	素案の中の基本的な性格の(4)に「資料を幅広く活用する」とあるが、公文書館機能のことが一辺倒に書かれており、自然系の資料のことに触れられていない。他の場所では自然系資料の保存収集についても書かれているところもあるが、自然系の委員がいないことが欠点ではないか。
	博物館の専門家が集まっても必ずしもいい博物館を作ることに結びつくわけではない。いろんな分野の委員が集まっているのはいいが、検討会などでは県民から募集するとかしているんな人が参加して、機運を高めていくのがいい。
	【その他】
	昔は子どもを外に連れて行き、自然に親しませる臨海実習があったが、今はできる場所も確保しにくく、あまりされていない。博物館の outlet として臨海実験場のようなものを作って欲しい。
	国や県も次代の夢をかなえるものが大切なものと気付くことに意義がある。山梨県博の「かいじあむ」のように「みえじあむ」というのも考えてみたらどうか。

	素案は立派だが、三重県の名前をつけなくても他でもやれそうなものとなっている。専門家を入れてもっと具体的に書き直して欲しい。
	文学の要素を取り入れて欲しい。受け皿として博物館を早く作らないと資料が四散していつてしまう。
	県民懇談会を五箇所でやっているが、県民の声を聞いたという単なるアリバイ作りで終わらないようにして欲しい。
	前回の博物館を作る話も凍結された。今回もどうなるのか？財源はどうするのか、どれだけ投資できるのか、県民の合意が得られるか。やるならやるで、長期ビジョンも合わせて考えていかねばならない。三重県は多様な県。生活圏、風土、歴史、文化の違いを認識した上で計画を立てて欲しい。
	大阪市立自然史博物館は博物館の施設自体が長居公園の中にあり、市民の憩いの場となっている。植物にも札がかかっている植物資源の体験学習も簡単にできる。三重の自然・歴史が生かせる憩いのエリアを作ればどうか。
	環境にも配慮した、三重の産業振興をリードする博物館になって欲しい。
	インターネットが発達していて、神奈川県や千葉県の博物館はホームページ上に参考になるものがたくさんあり、検索して簡単に勉強できる。作るのは大変だが、三重県でも是非お願いしたい。
	今まで博物館の検討をしていることを知らなかったので、もっと県民に知らせて欲しい。
	美術館の友の会も一時期盛大だったが今はどうか。(縮小しないためにも?)差別化して欲しい。お金のことも心配。運営管理費も「絞れ」となり中途半端なものにならないか。
	「美し国」は伊勢のサブテーマにはなるが、三重のテーマではない。三重は4つの国。ソウルの博物館に行ったことがあるが、先生や地域の子どもたちがノートを広げて自由に見ている。親しまれていると感じた。研究してはどうか。
	芭蕉は世界の芭蕉。県立博物館を芭蕉記念の博物館にしるという人もいる。自然も入れるが文化も入れる博物館を。
	【三重の文化振興方針(仮称)に関して】
	文化について、人材育成に力を入れて欲しい。長い目で見て「文化行政」でなく「行政の文化化」を。

会場
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀
伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

伊賀

「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧(熊野)

番号	項目・内容
	【テーマ・理念・性格等について】
	ネットワークを使ってというが、人文系の博物館は県内にたくさんあるが、自然を扱った博物館は少ない。その中でいくら情報を集めても中央には集まりにくい。自然に重点を置いて構想を練って行って欲しい。総合博物館と言っているのはいいが、名ばかりで人文系の博物館になることのないようにして欲しい。
	博物館整備の意義で、博物館の目的が文化振興のための手段としてとらえられている。間違いではないが、まず博物館の機能をきちんとすることで、そこから派生して文化振興につながっていくのではないかと。収集・保管、調査・研究がまず基本になれば、そこが充実してこそ教育普及、文化振興にも関わっていきける。素案をこのまま進めていけば財政的にもかなりの規模のものになり、また財政的理由でだめにならないかと懸念している。
	自然についての視点が弱いと思った。基本計画の中で取り入れていくと聞いたので、是非お願いしたい。三重で多くのアマチュアが活動している。そういうアマチュアの手元にもたくさんのデータ、資料標本がある。そういう人が集まって語れる場所がない。県立博物館が以前はその役割を果たしていたが、今は十分と言えない。
	まちかど博物館の館長さんの長年のコレクション、こだわり、地域への思いを見ていると、高いレベルの専門家の研究材料となる資料ばかりでなく、気軽に楽しめるスペースの確保も大事ではないかと思う。
	移動展示の考えもあるが、東紀州の人に博物館の情報をどう提供するかも大事。今から博物館を利用する若い人たちは、こういう場(県民懇談会等)には来にくいと思うが、そういう人たちの意見も聞いて欲しい。
	年間10万人が呼べる施設を作って既存の観光施設にも寄与すべき。
	形としてあるものを残すことも大事だが、無形のもの、文化財、まつり、神事、盆踊りなど、各地のものがどんどん消えていっている。地元の市町で残そうとすることは当然だが、県も一役買って欲しい。今記録して残しておかないと大変なことになるのではないかと。その点は博物館の基本的な考え方に含まれているか。素案にも「地域文化の継承」と出ているので、博物館が(地域文化)復活のきっかけづくりになればよい。
	【立地場所について】
	場所は県央部で決定か？他の会場でもいろんな意見が出たと思うが。
	【博物館の建物について】
	現在の県立博物館は展示室も閉鎖され非常に残念な状態。これまでの整備検討もつぶれて最悪の状態に陥っている。ないものを新設するより、老朽化に伴う改築・新築こそ早急にやって欲しい。博物館整備は現知事の公約であるが、知事が変わったりしてまた反故にされないか心配している。期待したことが、県民の意見も聞かず一方的に裏切られないか。
	県民のひとりとして大きく声を上げてこなかった反省もあるが、県立博物館の現状を見た方は、新しい誇れる博物館の整備が必要だということが分かると思う。是非造って欲しいということを県上層部の方にも伝えて欲しい。
	【展示について】
	【レファレンス機能について】
	【収蔵・収蔵物について】
	人文系の資料については各地域に郷土資料館などがあるがまだ収蔵場所が確保されている。自然系については県立博物館の収蔵庫もそんな状況にない。収蔵保管の施設を作って欲しいと切に願う。三重県のを三重県できちんと保管できる施設を望む。
	田川知事時代からの収集物もかなりの量があると思う。これから収集しなければならない自然の資料もある。収蔵庫としてどのくらいの規模を考えているか。
	【新博物館のネットワーク機能について】
	松阪以南には展示イコール収蔵庫となっている博物館が多い。人員も退職した高校の先生がやっていたりする。県内の収蔵資料のデータベース化で、県からフォーマットを渡して収蔵品の調査資料をくださいと言ってもその体制では難しく、人的にも県のバックアップが必要である。

	FAXでも2,3台でなくたくさん何台も入っている方が機能的に上がる。津市にひとつ作って終わりでなしに、各館を結んで相乗効果をはかるべき。各地の博物館では人的パワーが少ない。専任の学芸員やキュレーターが果たしてどれだけいるのか？ 充実が必要である。
	ネットワークの中に上手に組み込むことで、博物館が地域のまちづくりのサポートもして欲しい。例えば世界遺産の熊野古道で、古道センターやフィールドや文化資産を活用してはどうか。
	まちかど博物館のことをネットワークの中でピックアップしてとらえているか。
	【県民参画について】
	【学芸員について】
	熊野にもまちかど博物館がたくさんあるが、感心するのは館長さんが一生懸命説明してくれること。人材育成が大事である。モノに対し、どう人が語るか。
	施設が立派に越したことはないが、それより中の資料、人材が大切である。しっかり考えて欲しい。地域にも貴重な資料があり、人材がいる。活用できるようなシステム作りを考えて欲しい。
	県職員の中にも専門家や博士号をとっている人もいる。林業、漁業、獣医、文化歴史とか。身近なところの人間も基本計画づくりの際に活用すればよい。
	【管理・運営について】
	【公文書館(機能)に関して】
	【現博物館に関して】
	【事業費・運営費について】
	建設には財政的に相当のものがあると思うが、頑張ってもらいたい。内容を充実するために予算をしっかりとって欲しい。
	【文化審議委員について】
	審議会委員に自然系の人がない。自然系も充実させて欲しい。
	【その他】
	産業とつなげた文化と言っているが、丸山千枚田も棚田ということでひとつの文化資産ではないか。林業でも「なすびすぐり林業」というものが五郷町で伝えられてきた。これらも文化的な資料として残せるのか。
	文化施設と自然の中間にあるものが博物館だと思っている。名前をつけるなら自然に近いものにして欲しい。今の自然の状況を把握し県の特徴を名前に生かせばよい。
	平成5年頃、県立博物館の職員が、県内の資料で個人も対象にしてデータベースを作りたいと、自分が持っている化石の資料についても調査に来られたが、その結果がどうなったか教えてもらっていない。そのときのデータベースが残っているならば、個人収集資料の状況調査の参考にして欲しい。
	自分は博物館に行ったことがない。これから博物館が建てられるのはずいぶん先の話のような気がする。子どもたちの世界は今殺伐としている。こういう場をきっかけとして、もっと夢のある世界があるということを、建設を待たずして今からやって欲しい。無形文化財も声を大にして言っていかなないと無くなってしまふと切実に思う。こういう活動も進めて欲しい。
	【三重の文化振興方針(仮称)に関して】

会場
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野

熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野
熊野